

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その15 相手の心に安心感をつくる



猪俣 恭子

中央大学文学部卒

卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。結婚を機に退職してからは、実家の印刷会社に従事する一方、パソコンスクール講師として教育活動を行う。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年Coaching Press株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。

財生涯学習開発財団認定マスターコーチ

現在、私は週に2日ほどジョブカフェ千葉でキャリアカウンセラーの仕事をしています。先日、相談にいらしたAさんは21歳男性、細身の長身に黒のロングコート、顔の輪郭も細め、ヘアスタイルは懐かしい表現でいうならば往年の西城秀樹のような感じ、色白で下がり気味の目じり、会話の端々に笑顔がみられ、またその笑顔が表情がくしゃっとくずれてなかなか可愛らしくも感じました。

相談内容は、応募したい企業があるけれども自分は中卒、そんな学歴でも大丈夫なのだろうか？志望動機はどのように書けばいいのか教えてほしい、といったものでした。

現在の状況やこれからどうしていきたいのかなどを話す間、視線をそらすことなく私のほうを見ている、その目に若者らしい輝きがみてとれる、ちゃんと私が理解しやすいように内容を整理しながら話している、流暢な話し方ながらも冗長的な感じがしない、など全体的な印象から行動しながら学習していけるタイプのように感じました。とはいっても志望動機を聞いてみると、業界や仕事への理解など、まだまだ思慮が浅いところも否めません。しかしそれは能力が劣っているからというのではなく、社会人、ビジネスマンとしての経験の少なさからくる知識不足、スキル不足からくるものだろうと思われました。それにしても、Aさん、なんとなく要潤に似てるよなあ、なんて思ったまさにその瞬間、

「あのお、オレ、いや僕、猪俣さんが今、何、考えてるのかわかった！」

と突然言うではないですか。えっ、今私が考えていたこと？まさか、あなたが要潤に似てるって思ったことじゃないでしょうね？目が丸くなった私の表情を見て、Aさんの色白の顔がさあっと赤くなりました。

「いや、そのお、なんていうか、僕のこと、大丈夫だなんて思っているんだなって。ちゃんとできる

人って見てるのがわかったというか…。」

Aさんはもうしどろもどろです。そして最後にぼつりと言いました。「他のカウンセラーとは違うなって…。」

なるほど。それを聞いて、自分が相手をどう思っているのか、見ているのか、ということはやっぱり相手にももの見事に伝わっていくんだなあ実感せざるをえませんでした。もしかしたら、こういうことを察する感覚は若者のほうが優れているのかもしれない。人間は感情の動物だともいわれますが、相手が敵なのか味方なのかを直感で察知しながら安心できる人を選んでいるという言葉が思い出されました。やる気というのは目で見えない、測れないものですが、絶対に言えるのは、それは一緒にいて安心できる人の前だからこそ発揮できるということです。いい悪いと評価されない、ありのままの自分でもいい、一人の人間としてちゃんと尊重してもらっている、この人の前では自由に考えて自由に話しているんだ、そういう感覚を相手にもたらせることのできる人が、間違いなく相手のやる気を伸びやかに伸ばすことができるのだと、私は信じています。

相談終了時、「就職活動をしていく中で上手いかわからないこともでてくると思うよ。でもそれは経験不足からくるものだから、その都度これからの課題をはっきりさせながらそれを補っていけばいいだけのことだからね。そうして行ってね。」そう伝えると、Aさんは人懐っこい笑顔を見せながら「はい、早速応募書類書いてみます。」と椅子から元気よく立ち上がり帰っていきました。

いい悪いと評価せず、等身大の相手を受け入れる、「この人はできる人」として受け入れる。常に100パーセントの時間をそうしてというのではなく、1分でも2分でも職場の部下をそんな目でみてあげる時間をとってあげてください。きっと部下はあなたのその期待に応えていくようになるはずですよ。



コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)